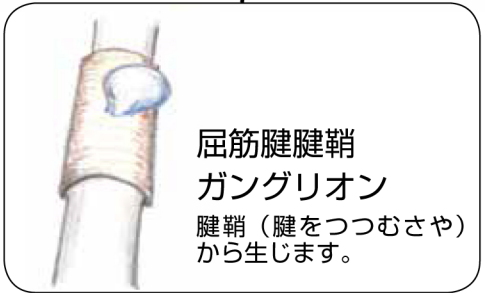
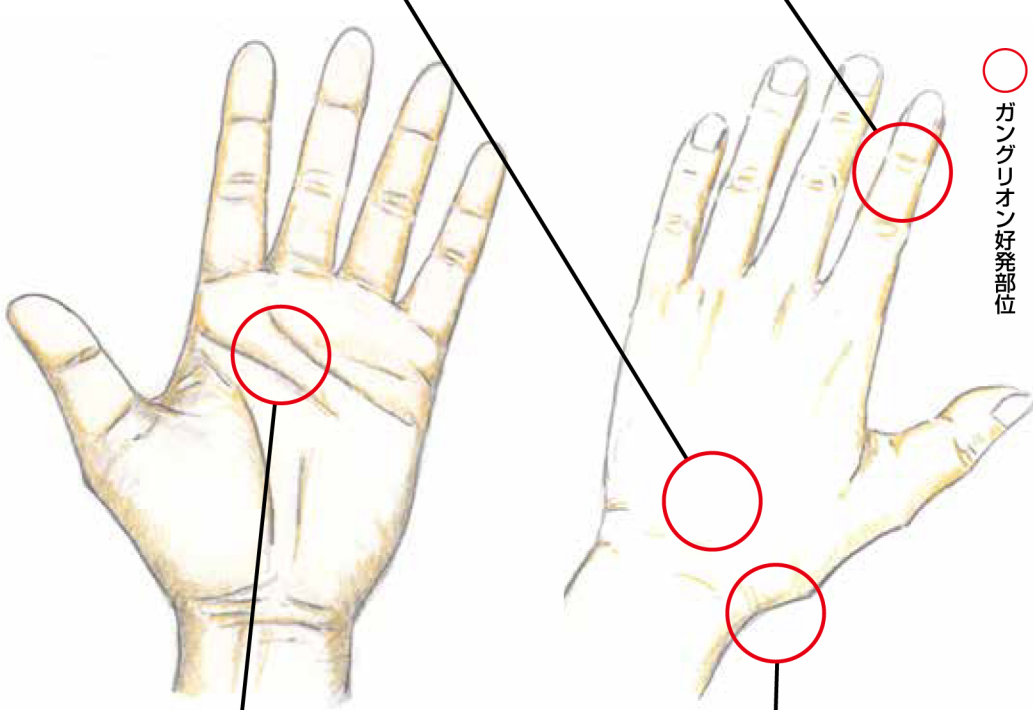
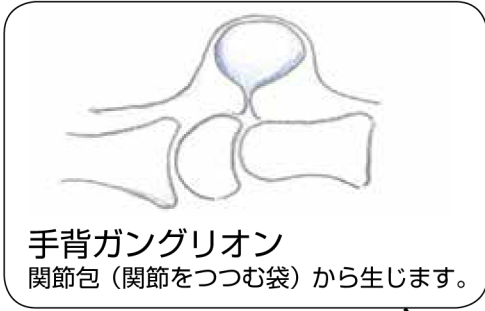


手外科領域の疾患

ガングリオン

○ ガングリオン好発部位



今回はガングリオンについて紹介します。関節包（関節をつつむ袋）、腱鞘（腱をつつむさや）から発生する腫瘤病変です。硬いもの、柔らかいものがあります。関節包や腱鞘の変性により生じます。関節液や腱鞘内の滑液が中にたまりゼリー状の内容物となります。好発部位は図に示す部位になります。

皮膚の下にくりつとした円形の腫瘤として触れることが多く、痛みや圧痛を伴うこともありますが、多くは無症状です。神経を圧迫するとしびれ、痛みを生じることもあります。超音波検査、MRIなどで診断することができます。

自然治癒することもあるので、症状が腫瘍のみの場合は、放置するか、穿刺して内容物を吸引することが多いです。

穿刺してもすぐに再発する場合、痛みを生じる場合、神経の圧迫を起こして、神経症状がある場合は手術で切除することもあります。

整形外科部長兼手術部長 中村 恒一